

市町村：真室川町

タイトル：地域農業の核となる真室川型畜連携システム

団体名：真室川町酪農振興会

代表者：佐藤和彦 会員数：5名 平成2年4月設立

1 組織の概要

県に先駆け全町エコエリアに取り組んでいる真室川町。その町内において、真室川町酪農振興会は土づくりの基礎となる堆肥生産・散布等を担い、かつ耕畜連携の中核となる活動を行っている。真室川町酪農振興会は、当初、共同で自給飼料生産を行うため組織されたが、町全体で土づくりの機運が高まり堆肥の運搬・散布作業をはじめた。その結果、堆肥の需要が増え販売量は、平成13年に180tであったものが、平成17年には1,400tと約8倍に急増している。この間、散布作業の分散化をねらい、雪中散布の技術を確立したり、堆肥の一時貯留・中継施設のストックヤードを設置したり、他に例のない取り組みを行っている。土づくりを基本にした真室川町農業の土台は、酪農振興会が支えていると言っても過言ではない。

2 活動の内容

園芸作物やこだわり米の生産拡大に伴って土づくりへの意欲が高まる中、その土台となる堆肥の製造・運搬・散布事業を組織として担い、町の資源循環型農業の要となっている。

(1) 堆肥の供給・散布面積の推移

年度	堆肥供給量 (t)	散布請負面積 (ha)	摘要
平成13年度	180	5	
平成14年度	250	10	
平成15年度	320	25	堆肥製造施設を新たに整備
平成16年度	750	70	マニュアルスプレッダの導入
平成17年度	1,400	130	

※平成17年度に真室川町では、42名がエコファーマーの認定を受け、また米の特別栽培が120haに拡大。

(2) 組織活動の特徴

- 堆肥の製造方法は、乳牛のふん尿、カンナクズ、きのこ廃オガを容積比で1:1:0.5の割合で混合して水分70%以下に調整し、ロータリー式混合機で攪拌後、3ヶ月以上堆積して熟成させている。(運搬はダンプカー、散布は自走マニュアルスプレッダ(3t)で実施)
- 平成15年度に「もがみエコ農業推進事業」(総合支庁独自事業)により、ねぎとにらの堆肥施用実証ほを設置するとともに、自走マニュアルスプレッダによる雪上散布の実演会を開催しているが、この活動が契機となり堆肥の供給量と散布面積が、その後急増している。
- 酪農振興会所有の堆肥製造施設は、町の南部に位置しているが、堆肥散布の需要地区が施設から10~20km離れており移動作業だけで長時間を要することから、耕種農家側と協力してストックヤードを各地区に整備し、作業の効率化を図っている。
- 町の園芸作物の主力品目である「たらの芽」については、収穫後の駒木の処理が課題であったが、チップ処理して堆肥生産の副資材に活用する方式を開発し、未利用資源の有効活用に努めている。
- 酪農振興会における堆肥の供給・散布活動の拡大と連動し、今年度、ねぎ栽培農家42名がエコファーマーの認定を受け、また米の特別栽培農産物の認証が120haまで広がっている。
- 酪農家は真室川町コントラクター組合の主力メンバーでもあり、稲作農家と連携して飼料イネホールクroppサイレージの生産にも取り組んでいる。
- 酪農振興会の活動に対しては、町はもちろんのこと、農協も堆肥の注文窓口を引き受けるなど関係機関が一体となってバックアップしている。

3 今後の発展方向

- 今後とも、耕種農家から喜んでもらえるように良質の堆肥づくりに努める。
- 耕種農家と相談しながら、ストックヤードの設置数と散布作業の仲間を増やして作業の一層の効率化を目指す